【公報種別】特許法第１７条の２の規定による補正の掲載
【部門区分】第３部門第２区分
【発行日】平成20年4月24日(2008.4.24)

【公表番号】特表2007-535505(P2007-535505A)
【公表日】平成19年12月6日(2007.12.6)
【年通号数】公開・登録公報2007-047
【出願番号】特願2007-504377(P2007-504377)
【国際特許分類】
Ａ６１Ｋ　31/138　(2006.01)
Ａ６１Ｋ　 9/06　(2006.01)
Ａ６１Ｋ　 9/08　(2006.01)
Ａ６１Ｋ　 9/70　(2006.01)
Ａ６１Ｋ　 9/107　(2006.01)
Ａ６１Ｋ　 9/10　(2006.01)
Ａ６１Ｋ　47/14　(2006.01)
Ａ６１Ｋ　47/32　(2006.01)
Ａ６１Ｋ　47/38　(2006.01)
Ａ６１Ｋ　47/04　(2006.01)
Ａ６１Ｋ　47/18　(2006.01)
Ａ６１Ｐ　35/00　(2006.01)
【ＦＩ】
Ａ６１Ｋ　31/138
Ａ６１Ｋ　 9/06
Ａ６１Ｋ　 9/08
Ａ６１Ｋ　 9/70　４０１
Ａ６１Ｋ　 9/107
Ａ６１Ｋ　 9/10
Ａ６１Ｋ　47/14
Ａ６１Ｋ　47/32
Ａ６１Ｋ　47/38
Ａ６１Ｋ　47/04
Ａ６１Ｋ　47/18
Ａ６１Ｐ　35/00

【手続補正書】
【提出日】平成20年3月7日(2008.3.7)
【手続補正１】
【補正対象書類名】特許請求の範囲
【補正対象項目名】全文
【補正方法】変更
【補正の内容】
【特許請求の範囲】
【請求項１】
良性乳房疾患の治療のための医薬の製造における４－ヒドロキシタモキシフェンの使用。
【請求項２】
前記医薬が経皮投与に好適な形態のものである請求項１に記載の使用。
【請求項３】
前記４－ヒドロキシタモキシフェンが浸透促進剤を含む媒体中のものである請求項１ま

たは２に記載の使用。
【請求項４】
１日当たり約０．２５～２．０ｍｇ／乳房、好ましくは約０．５～１．０ｍｇ／乳房の４－ヒドロキシタモキシフェンを患者に投与できる請求項２に記載の使用。
【請求項５】
前記４－ヒドロキシタモキシフェンが、水性アルコールゲル、水性アルコール溶液、貼付剤、軟膏、クリーム、乳濁液（ローション）、散剤またはオイル、好ましくは水性アルコールゲルに製剤されている請求項１～４のいずれかに記載の使用。
【請求項６】
前記４－ヒドロキシタモキシフェンが、浸透促進剤、水系媒体、アルコール系媒体およびゲル化剤を含む水性アルコール組成物に製剤されている請求項５に記載の使用。
【請求項７】
前記４－ヒドロキシタモキシフェンが、水性アルコールゲルに製剤されており、
４－ヒドロキシタモキシフェンの量が、ゲル１００ｇ当たり４－ヒドロキシタモキシフェンが約０．００１ｇ～約１．０ｇの範囲である請求項５に記載の使用。
【請求項８】
前記水性アルコール組成物が、
ａ）約０．０１重量％～０．２０重量％の４－ヒドロキシタモキシフェン、
ｂ）約０．５重量％～２重量％のミリスチン酸イソプロピル、
ｃ）約６０重量％～７５重量％の無水アルコール、
ｄ）約２５重量％～４０重量％の水系媒体、
ｅ）約０．５重量％～５重量％のゲル化剤
を含み；
成分の前記パーセントが、前記組成物の重量に対する重量である請求項６に記載の使用。
【請求項９】
前記水性アルコール組成物が単位用量小袋内または計量ポンプ付きの複数用量容器内に入れられている請求項８に記載の使用。
【請求項１０】
前記良性乳房疾患が増殖性乳房疾患である請求項１～９のいずれかに記載の使用。
【請求項１１】
前記良性乳房疾患がエストロゲンと関連している構成要素を有する、および／または、前記増殖性乳房疾患が、腺症、嚢胞、管拡張、線維腺腫、線維嚢胞症、線維症、過形成および化生からなる群から選択される請求項１～１０のいずれかに記載の使用。
【請求項１２】
乳癌を発症する危険性がある患者における良性乳房疾患の予防のための医薬の製造における４－ヒドロキシタモキシフェンの使用。
【請求項１３】
前記患者が閉経前である請求項１２に記載の使用。